

水上勉生誕百周年記念「若州人形座公演」

竹人形文楽

越前竹人形

原作 水上 勉
演出 幸 晃彦
語り 飛鳥井かざり
能管 野中久美子



2019年

11月16日(土) / 17日(日)

午後1時30分開場・午後2時開演

会場 若州一滴文庫くるま椅子劇場

料金2,000円(全席自由) 定員180名(チケット販売9月18日(木)より)

主催：特定非営利活動法人一滴の里 後援：おおい町教育委員会

お問い合わせ・お申し込み

若州一滴文庫

〒919-2116 福井県大飯郡おおい町岡田33-2-1

特定非営利活動法人 一滴の里事務局

TEL 0770-77-2445

FAX 0770-77-2366

HP <http://www.itteki.jp/>

開館時間 午前9時～午後5時

休館日 毎週火曜日(祝日の場合は開館、翌日休館)



水上勉 生誕百周年記念「若州人形座公演」

竹人形文楽

越前竹人形

あらすじ

越前竹神村に、氏家喜助という竹細工師がいた。母には早く死に別れ、一年前に父も逝き、偏屈者の喜助は村の衆を避けるように、竹細工仕事に精を出していた。

ある日、かつて父の情人であった芦原の娼妓玉枝が墓まいりに竹神村をおとずれ、喜助の孤独な住まいを訪ねる。喜助は竹の精のような美しい玉枝に憧れ、その日から玉枝に似た竹人形をつくりはじめる。

やがて喜助はその竹人形を完成させ、

玉枝と交流を深め、ついには玉枝を妻として迎える。喜助のつくる竹人形は「越前竹人形」と呼ばれて世間でも評判になり、喜助は竹の精のような玉枝のイメージを次々と精巧な竹人形に結晶させていくのだが、妻である玉枝を抱こうとはしなかった。

寂しく思っている玉枝の前に、娼妓時代のなじみの客、人形問屋の番頭崎山忠平が現れる。崎山の出現によって、喜助と玉枝の運命は大きく変わっていく……。

原作 水上 勉
脚本・演出 幸 晃彦

人形美術
衣装……植田いつ子
かしら……高橋 弘子
ボディ……岸本 一定

語り 飛鳥井かづり
能管 野中 久美子

人形遣い 静永 鮮子
塚原 史郎
吉田 貴志
くぬぎ 森子
保田 麻衣
工藤 琢人

照明 福井 邦夫
中村 藍子
音響 金子 進一
(南ティーアンドクルー)

舞台監督 須川 由樹
(南ティーアンドクルー)

舞台美術 幸 晃彦

協力 森田 智子
(Jelly Beans)
坂本 幸子
(Jelly Beans)
向坂 典子

